

## 「フランスの精神分析」(『精神分析・精神病理の臨床研究』第二期)

日本で主流となっている精神分析は、クライン、ビオン、ウィニコットを始めとする英米圏の精神分析である。しかし、世界の趨勢を俯瞰的に眺めると、英米圏のそれとは異なったフランス独自の文化的土壌から生まれた精神分析があり、とりわけロマンス語圏の国において圧倒的な影響力を持っている。

フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それはあくまで、その潮流の一つでしかない。フランスには、ラカン以外にも数多くの独創的な精神分析理論が、展開も継承もされないまま散らばっているが、その存在は日本の臨床家のあいだには知られていない。それらの理論の可能性を再検討することがこのセミナーの目的である。

前年度は、アンドレ・グリーンの仕事を中心に、フランス精神分析の全体像を把握することを試みた。第二期では、グリーンを出発点にし、さらに広範なテキストを読解する予定である。

**日 程**：2023年5月～2024年3月（7月、1月は休み）全9回

第三日曜日（原則）、午後1時30分から4時まで

**ファシリテーター**：十川幸司

**形 式**：担当者が指定された論文のレジメを発表し、全員で討論する。

**テキスト**：その都度、文献を指定し、配布する。

（フランス語が全く読めなくても参加可能なように、英訳、邦訳のある文献を取り上げます。ご気楽にご応募下さい）。

**参考文献**：英語で読めるものとしては、**Reading French Psychoanalysis (Routledge,2010)**が全体像を理解するのに役立ちます。

**定 員**：10名。

**資 格**：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。

**場 所**：小寺財団第二セミナールーム（参加人数、感染状況によって変更あり）

**参 加 費**：30000円（参加者が決定次第、振り込み情報をお伝えします）

**申し込み締め切り**：2023年5月8日（月）

（概要案）【1】 枠組みと表象：アンドレ・グリーン 【2】 パロールと文字：ジャック・ラカン 【3】 精神病：ギイ・ロズラート 【4】 家族の秘密：セルジュ・ティスロン 【5】 系譜：ウラジミール・グラノフ 【6】 身体：クリストフ・ドジュール 【7】 セクシュアリティ：ロージェヌ・ペレルバーグ 【8】 抑うつ：ジュリア・クリスティヴァ 【9】 時間：フランシス・パシエ

**主催**：小寺記念精神分析研究財団

小寺記念精神分析研究財団主催／2023年度

## フランスの精神分析参加申込書

参加申込書は、下記住所まで E-mail または Fax にてお送りください。

〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団セミナー事務局

Fax : 03-3350-9749 E-mail : kodera.kt@nifty.com

申込締切：5月8日（月）

申込 月 日

フリガナ			
氏名	(19 年生)		
勤務先			
所属		職種	経験年
連絡先住所 自宅・勤務先 (どちらかに○)	〒		
電話(携帯可) 自宅・勤務先 (どちらかに○)		e-mail アドレス	

本セミナーへの参加動機

--

**基本知識**

フランス語力は（該当する□にチェックしてください）

ある程度ある□

初心者レベル□

全く読めない□

**その他**（あればご自由にお書きください）

**参加費：30,000円**

☆参加者のメンバー構成および採否に関しましては、当方にご一任いただきます。締め切り後、決定次第、メールにてご連絡いたします。振込先は、その際ご案内します。

本セミナーの案内をどのようにして知りましたか？該当するものに○をお付け下さい。  
郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他（ ）

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使用いたします。